

## <麦類の栽培ポイント>

### 1. 湿害対策の徹底

麦は播種期・生育期・登熟期の全栽培期間を通して湿害を受けやすい作物です。安定した収量・品質確保のために排水対策を徹底しましょう。

- ・ 排水溝の設置は早いほど効果的です。まだ設置していない場合は、圃場の周囲に排水溝を設置します。
- ・ 排水性が悪い場合は、圃場内にも5～10m間隔で排水溝を設置します。
- ・ 排水口は低く掘り下げて圃場外の排水路につながります。
- ・ 時々排水溝を点検し、必要に応じて溝さらいを行いましょう。

### 2. 麦踏み

- 12月中に麦の3葉目が伸びてきたら1回目の麦踏みをしましょう。  
生育が遅れている場合は無理に踏まず、3葉目が出てきたのを確認してから実施します。
  - 麦踏みは年内1回、年明け～茎立期直前2回以上が目安です。  
麦踏みの間隔は10日から2週間程度あけるようにします。
  - 向こう3か月の平均気温は平年より高い確率が50%との予報です。茎立ちが早まると幼穂凍死が発生する危険があります。茎立ち期直前までしっかり麦踏みをしましょう。
- ※降雨後、土壌水分が高いときの麦踏みは逆効果です。圃場が乾いてから麦踏みしましょう。

麦踏みの効果 →

- |                   |             |
|-------------------|-------------|
| ① 分けつを進める         | } 12～2月の厳寒期 |
| ② 根張りを良くし、耐寒性をつける |             |
| ③ 霜柱などによる凍上害防止    | } 茎立ち期直前    |
| ④ 暖冬時、早すぎる茎立ちを抑える |             |
| ⑤ 穂ぞろいを良くする       |             |

### 3. 雑草防除

麦の発芽後に雑草の発生が目立つ場合は、下表を参考に除草剤を散布しましょう。

使用時期	雑草名等	除草剤	使用回数
播種後～麦3葉期 (雑草発生前～発生始期)	一年生広葉雑草、 スズメノテッポウ	ハーモニー細粒剤F	1回 <small>どちらかを使用</small>
播種後～節間伸長前 (但し、スズメノテッポウ5葉期まで)		ハーモニー75DF水和剤	
穂ばらみ期まで(雑草生育初期)	畑地一年生広葉雑草	アクチノール乳剤	2回以内
大麦節間伸長開始期まで (広葉雑草2～4葉期) (但し、収穫45日前まで)	一年生広葉雑草	エコパートフロアブル	2回以内
小麦節間伸長開始期まで (広葉雑草2～4葉期、ヤムグラ2～6節期) (但し、収穫45日前まで)			

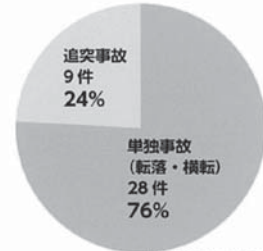
※除草剤(農薬)を使用するときは、ラベルの表示を確認して正しく散布してください。

※麦の生育期に茎葉処理剤を使用する場合、雑草の生育が進むと効果が劣るので注意しましょう。

(裏面あり)

# トラクター作業事故<sup>ゼロ</sup>へ！！

## 公道での事故例から学ぶ原因と対策

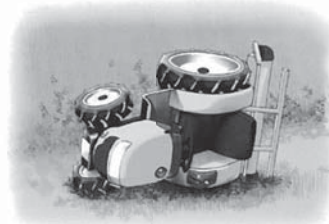


出典：平成28年 警察庁資料より  
■農耕車に関係する交通死亡事故の事故形態件数

### 原因

#### 1. 単独事故

ハンドルやブレーキの操作を誤って公道から逸脱し用水路へ転落等  
農機は重心が上にあるので、傾斜地での微妙な操作でバランスを崩しやすい。



#### 2. 追突事故

公道を走行中、後続車が追突  
特に夕方から夜にかけての時間、速度の遅い農耕車は後続車から発見されにくく、追突事故が起こる。



### 対策

## 農機による死亡事故対策の3つのポイント 死亡事故を防ぐには対策と準備が重要です。

#### ポイント1

#### シートベルトの着用と安全キャブ・フレームの装着

救命効果の高い安全キャブやフレームが付いているトラクターを利用※しましょう。  
(安全フレームは倒さずに使いましょう)  
トラクター等の農機運転中は必ずシートベルトを着用しましょう。  
転落や横転、追突された場合に身体が投げ出されるのを防ぎます。  
※車種によっては取り付けられないものもあります。



#### ポイント2

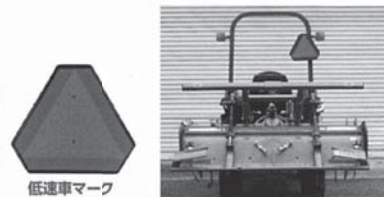
#### ブレーキ連結の確認

道路走行時は必ず左右のブレーキを連結しましょう。  
ブレーキ連結をしていないと、ブレーキを踏んだときに急旋回して転落、横転する事故につながる恐れがあります。

#### ポイント3

#### 低速車マークや反射板の取り付け

一般車両との接触や追突を防ぐためには周囲に気付いてもらうことが大切です。後続車から見えやすい位置に「低速車マーク」や「反射板」を取り付けましょう。  
走行する前に低速車マークや反射板が泥で汚れたり、積載した荷物で隠れていないかチェックを。



単独事故の多くはハンドルやブレーキ等の操作誤りによって発生していますので、確実な運転操作を心掛けましょう。  
その他にも、ヘルメットの着用や夜間走行を控えることなども事故防止の一つです。